

演題:「重症急性膵炎の一例」

徳之島徳洲会病院 初期研修医
福岡徳洲会病院二年次 三ノ宮 寛人

症例は ADL が自立した 83 歳の男性。

嘔吐、倦怠感を主訴に救急搬入された。来院時の血液検査、腹部造影 CT 検査から急性胆石性膵炎の診断とし、緊急 ERCP を施行した。その後輸液、抗菌薬、蛋白分解酵素阻害薬などを使用し、一時は軽快傾向にあったが、第 20 病日の腹部造影 CT 検査で膵膿瘍を認めた。その後治療の甲斐なく全身状態が悪化し、第 24 病日に死亡退院となった。

今回の症例について文献を交えて考察する。